



2022年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年9月9日

上場会社名 株式会社ビーアンドピー 上場取引所 東
 コード番号 7804 URL <https://www.bandp.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 和田山 朋弥
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 清水 明 TEL 06-6448-1801
 四半期報告書提出予定日 2022年9月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年10月期第3四半期の業績 (2021年11月1日～2022年7月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年10月期第3四半期	2,036	6.8	213	15.0	214	10.5	131	0.2
2021年10月期第3四半期	1,907	△1.1	185	0.4	193	2.8	131	2.2

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年10月期第3四半期	57.39	—
2021年10月期第3四半期	57.15	57.08

(注) 2022年10月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年10月期第3四半期	3,239	2,808	86.7
2021年10月期	3,191	2,752	86.3

(参考) 自己資本 2022年10月期第3四半期 2,808百万円 2021年10月期 2,752百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年10月期	—	0.00	—	31.00	31.00
2022年10月期	—	0.00	—		
2022年10月期 (予想)				31.00	31.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、当面の配当方針としては期末配当の年1回を基本方針としております。

3. 2022年10月期の業績予想 (2021年11月1日～2022年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,750	7.9	302	36.0	302	11.3	206	8.9	89.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年10月期3Q	2,300,000株	2021年10月期	2,300,000株
② 期末自己株式数	2022年10月期3Q	5,200株	2021年10月期	—株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年10月期3Q	2,295,341株	2021年10月期3Q	2,300,000株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は、T D n e t 及び当社ウェブサイトにて同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による低迷からの回復が期待されました。しかし1月に入ってオミクロン株による感染が急増し、3月まで多くの地域でまん延防止等重点措置が実施され、その後感染は減少傾向になったものの、7月に入ってオミクロン変異株により感染者が急増しました。これに加え、資源価格の高騰やウクライナ情勢による不安定な国際情勢の影響により、国内の経済状況ははまだ先行きが不透明な状況が続いております。

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、当社は引き続き新型コロナウイルス感染症に対する従業員の安全を確保し、柔軟な時差出勤の実施等の各種感染防止策を実行した上で、お客様からの信頼にお応えすべく、営業体制・生産体制の両方の維持継続を図ってまいりました。

当社の主要事業であるインクジェットプリント事業において、新型コロナウイルス感染症の影響による案件の延期等が発生したものの、東京と大阪における営業体制の強化や名古屋・福岡エリアにおける新規顧客獲得活動を積極的に展開したことにより、売上の回復傾向が続いております。また、利便性を向上させたプリント通販サービス「インクイット」を8月1日に開設し、WEB集客の強化を図ることといたしました。生産体制については、原価低減活動を継続的に行うと共に、昨年8月に首都圏エリアの生産機能を横浜ファクトリーに統合したことによる大規模生産体制の構築、及び、業務の自動化等により生産性向上に向けた取組みを進めました。また、資材価格の高騰につきましては、代替品の調達等による対応を進めております。

前期から開始した2つの新規事業のうち、デジタルサイネージ事業については、大型の受注を獲得し、引き続き新商材やコンテンツを一元管理する仕組み(コンテンツ・マネジメント・システム)による映像配信システムの導入提案を積極的に進めております。もう一方のデジタルプロモーション事業については、従来のネットショップの運営サポートに加えてWEBプロモーションの支援を開始し、キャンペーン企画の提案等を積極的に進めております。

以上の結果、売上高は2,036,533千円(前年同期比6.8%増加)、営業利益は213,798千円(前年同期比15.0%増加)、経常利益は214,309千円(前年同期比10.5%増加)となりました。なお、2022年1月27日開催の第36期定時株主総会において、取締役及び監査役に対する役員退職慰労金制度廃止に伴う打切り支給についてご承認いただいたことに伴い、役員退職慰労引当金の引当対象外である功労金23,550千円を特別損失に計上いたしました結果、四半期純利益は131,728千円(前年同期比0.2%増加)となりました。四半期純利益につきましては上記の特殊要因があったものの、売上高、営業利益、経常利益は、ほぼ期初想定に沿って進捗しており、第4四半期には大型の受注も確定していることから、通期で期初想定の上振れを目指します。

(単位：千円)

区分	前第3四半期累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)	前年同期比 (%)
販売促進用広告制作	1,501,296	1,663,520	110.8
生活資材・製品制作	405,863	373,012	91.9
合計	1,907,159	2,036,533	106.8

(注) デジタルサイネージ及びデジタルプロモーションについては金額的重要性がないため販売促進用広告制作に含めております。

なお、当社はインクジェットプリント事業を主要な事業としており、他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント別の経営成績の記載はしていません。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、2,994,725千円（前事業年度末は2,930,504千円）となり、64,221千円増加いたしました。その主な要因といたしましては、四半期純利益の計上等により現金及び預金が65,638千円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は、244,955千円（前事業年度末は261,139千円）となり、16,183千円減少いたしました。その主な要因といたしましては、減価償却による固定資産の減少が設備投資による固定資産の増加を上回ったためであります。

(流動負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、278,189千円（前事業年度末は309,917千円）となり、31,727千円減少いたしました。その主な要因といたしましては、前事業年度末の未払金残高に含まれていた上場市場変更費用を当事業年度に支払ったためであります。

(固定負債)

当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は、153,265千円（前事業年度末は128,747千円）となり、24,518千円増加いたしました。その主な要因といたしましては、定時株主総会において役員退職慰労金の打切り支給をご承認いただいたことに伴い、役員退職慰労引当金の引当対象外である功労金23,550千円を長期未払金に計上したことによるものであります。なお、従前より役員退職慰労引当金に引当計上していた金額についても長期未払金に計上しておりますが、役員退職慰労引当金を取り崩していますので、固定負債の増減には影響いたしません。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、2,808,226千円（前事業年度末は2,752,979千円）となり、55,247千円増加いたしました。その主な要因といたしましては、剰余金の配当71,300千円及び自己株式取得9,980千円による減少があったものの、四半期純利益131,728千円を計上したためであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年10月期通期の業績予想につきましては、2021年12月9日に公表しました業績予想から変更はありません。

なお、業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

特に、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う影響につきましては、国内経済の回復傾向が続く前提に基づき予測したものであり、実際の収束時期によっては国内企業の販売促進活動の停滞が続き、それにより当社の業績は変動する可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年10月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,331,333	2,396,971
受取手形	71,966	76,840
電子記録債権	87,385	120,622
売掛金	404,432	347,469
商品	116	115
仕掛品	2,530	11,752
原材料	7,424	13,143
貯蔵品	—	456
前払費用	24,945	26,828
その他	370	526
流動資産合計	2,930,504	2,994,725
固定資産		
有形固定資産		
建物	48,066	48,706
機械及び装置	443,521	438,453
車両運搬具	632	—
工具、器具及び備品	10,204	11,704
リース資産	29,697	29,697
その他	2,501	9,734
減価償却累計額	△447,726	△458,635
有形固定資産合計	86,897	79,660
無形固定資産		
ソフトウェア	7,156	6,508
のれん	24,426	20,742
顧客関連資産	10,408	6,421
その他	—	754
無形固定資産合計	41,991	34,427
投資その他の資産		
出資金	60	60
敷金	80,491	79,871
破産更生債権等	—	670
長期前払費用	1,743	981
繰延税金資産	49,955	49,955
貸倒引当金	—	△670
投資その他の資産合計	132,250	130,868
固定資産合計	261,139	244,955
資産合計	3,191,643	3,239,681

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年10月31日)	当第3四半期会計期間 (2022年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	133,476	131,945
未払金	36,504	21,789
未払費用	25,260	28,794
未払法人税等	41,772	28,008
未払消費税等	25,321	30,009
預り金	17,290	21,355
賞与引当金	25,000	13,659
リース債務	4,349	1,039
その他	941	1,588
流動負債合計	309,917	278,189
固定負債		
長期末払金	—	145,450
役員退職慰労引当金	120,479	—
資産除去債務	7,777	7,815
リース債務	490	—
固定負債合計	128,747	153,265
負債合計	438,664	431,454
純資産の部		
株主資本		
資本金	286,000	286,000
資本剰余金	276,000	276,009
利益剰余金	2,190,979	2,251,407
自己株式	—	△5,190
株主資本合計	2,752,979	2,808,226
純資産合計	2,752,979	2,808,226
負債純資産合計	3,191,643	3,239,681

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年7月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年7月31日)
売上高	1,907,159	2,036,533
売上原価	1,145,011	1,224,341
売上総利益	762,148	812,191
販売費及び一般管理費	576,204	598,393
営業利益	185,944	213,798
営業外収益		
受取利息	0	0
受取補償金	105	449
補助金収入	8,000	—
物品受贈益	—	50
雑収入	94	122
営業外収益合計	8,200	622
営業外費用		
支払利息	270	50
支払手数料	—	60
営業外費用合計	270	111
経常利益	193,874	214,309
特別損失		
固定資産除却損	1,429	259
役員退職慰労金	—	23,550
特別損失合計	1,429	23,809
税引前四半期純利益	192,445	190,499
法人税等	61,005	58,771
四半期純利益	131,440	131,728

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしました。

なお、収益認識会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品または製品の国内販売において、出荷時から当該商品または製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響は軽微であります。また、当第3四半期累計期間の損益に与える影響も軽微であります。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した、新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

なお、実際の収束時期によっては国内企業の販売促進活動の停滞が続き、それにより当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(役員退職慰労引当金)

当社は、2021年12月20日開催の取締役会において、役員退職慰労金制度(以下「本制度」という。)を2022年1月27日開催の第36期定時株主総会(以下、「本株主総会」という。)終結の時をもって廃止することを決議し、本株主総会において、本制度廃止までの在任期間に応じた額に一定の功労金を加算した総額145,450千円を打切り支給すること、及び、支給の時期は当該役員の退任時とすることにつきご承認いただきました。

これにより、第1四半期会計期間に新たに計上した1,420千円を含めて役員退職慰労引当金を取り崩し、打切り支給額を長期未払金に計上するとともに、引当金対象外である功労金23,550千円については特別損失に計上しております。